



みよし市のチャレンジ ～当事者の声を聞きに出向く～



一人ひとりの行動がみよし市の未来を彩る
AICHI MIYOSHI CITY SDGs

愛知県みよし市 長寿介護課
認知症地域支援推進員
近藤 隆彦

みよし市の基礎情報

令和6(2024)年2月1日時点

人口	61,499人	65歳以上人口	11,630人
高齢化率	18.9%	第8期介護保険料	4,600円
日常生活圏域数	3か所(H29～) 4か所(R4～)	包括数 (R4～委託+1)	直営:1か所 委託:3か所

認知症地域支援推進員数: 8名(うち行政:2人、包括:4人、その他:2人)

認知症初期集中支援チーム:1チーム(市直営)

地域の特徴:

- ・名古屋市と豊田市の間に位置し、人口増加しているが、高齢化率は低い。
- ・約32Km²と小さなまち。古くは農村であり、名産はかき・なし・ぶどう。
- ・桜の名所でもある三好池は、カヌーのまちの象徴でもあり、その道の人には有名。
- ・夏に三大夏まつりがあり、大提灯は世界一の大きさ。
- ・認知症施策は、認知症サポーターキャラバンで市部門日本一のまち。



みよし市の認知症の人やその家族を支えるための施策の全体像

1. 普及啓発・本人発信支援

認知症サポーターの養成

- ・ 小中高大学生
- ・ 市職員等職域

図書館での普及

2. 予防

通いの場(生活支援体制整備事業)

健診等保健事業

- ・ 健康診断、保健指導、健康度評価事業
- ・ ウォーキング、栄養教室等

3. 医療・ケア・介護サービス・ 介護者への支援

認知症地域支援推進員の配置

認知症初期集中支援チームの設置

認知症ケアパスの普及(ひまわりノート含む)

認知症カフェの普及

認知症家族交流会の開催

4. 認知症バリアフリーの推進・ 若年性認知症の人の支援・ 社会参加支援

みよし安心ネット(あいちオレンジネットワーク)

行方不明高齢者搜索模擬訓練

認知症等あんしん補償事業

成年後見制度利用促進事業

5. 研究開発・産業促進・国際展開

くらし・はたらく相談支援センター

個別の支援をきっかけに動き出したチームオレンジ

キッカケその１：
本人が「続けたい」と願った。

- 認知症と診断された人がそれをきっかけにグランドゴルフをやめてしまった。
- グランドゴルフは、本人にとって楽しくて続けたいことだった。
- 閉じこもり傾向になった本人を家族が心配してグランドゴルフ仲間に相談した。

キッカケその２：
地域 みんなでお互いに見守りながら最後まで住みたい。

- 20～30年前の同じタイミングで家を建てて住んできた仲間なので最後までお互いに見守れる地域を作りたい。
- 認知症はみんななるかもしれないから本人も一緒に仲間も認知症について学んでグランドゴルフをみんなで続けられるようにしたい。

本人の望みを家族が気づき、地域につなぎ、地域の仲間もみんな一緒にと願ったことからスタートするチームオレンジ

この奇蹟のはじまりは他事業から

ステップ1

第2層協議体のメンバーから情報提供もらう

- 地域のリーダー的存在で、地域で見守りたいと願い、それを実現しようとしてくれる人が第2層協議体のメンバーにたまたまいた。
- グランドゴルフのメンバーでもあり、家族から相談受けたが、受け入れてあげられない地域の課題を協議体で議題として挙げられた。

ステップ2

生活支援コーディネーター(SC)が推進員に相談した。

- SCと認知症地域支援推進員を全包括に配置している。
- 上記の議題の件をSCが推進員に相談した。
- SCが小さなきっかけをしっかりと拾い、さらに適切な対応者である推進員に相談することができた。



複数の事業で情報共有されなければ生まれなかった奇蹟

この奇蹟のはじまりは他事業から

ステップ3

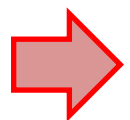
まずは認知症について学習機会を作った。

- グランドゴルフの仲間は、認知症と聞いてどう対応してよいかわからないと不安に思っていたので、まずは認知症サポーター養成講座の枠組を活用し、学習機会を提供した。
- 一度講座を受けただけでも、「特別扱いしなくてもよい」や「できない部分だけ支援すればよい」等を学んだことで、徐々に自然に接することができるようになってきた。

ステップ4

チーム化に向けてはACPも取り入れることとした。

- 一度学習しただけでは、見守りが継続できる地域づくりは完成しないとリーダーが考え、継続的な学習機会により見守るために必要な知識をしっかりと習得したいと考えた。
- ステップアップ講座として継続学習機会を提供することとした。
- ちょうどこの時期に、ACPの特集を広報に掲載しており、お互いに見守るには仲間同士でACPを理解することも必要と考え、ステップアップ講座に盛込むこととした。



さらに別事業での取組を連携させることができた。

デイサービスに出向いて本人の声を聴く取組

1 取組概要

市内のデイサービスに協力してもらい、デイサービスのレクリエーションの時間を使って、体験や日ごろのこと、やりたいこと、得意なことなどを話す機会を創出する。

2 なぜデイサービスなのか

厚労省ホームページに掲載がある「本人ミーティング開催ガイドブック」を参考に、集まってもらうより出向いて聴きに行こうと推進員で検討し、まずはやってみないと何が良いかなどがわからないので、はじめてみた。グループホームと迷ったが、在宅で生活している人がよいということでデイサービスとした。

3 デイサービスのスタッフの受け入れはどうか

趣旨に賛同し、一緒にやってくれるデイサービスを選定した。管理者はとても協力的で、当日も多くのスタッフが一緒に取り組んでくれた。そのやりとりがよかったようで、推進員が行かない日にデイサービスのレクとしてまたやりたいという声が聞かれた。

4 今後の展開はどうか

まずは3月まで試行し、それを踏まえて推進員で協議して方法論などを検討する。継続しないと意味がないという認識は共有している。

本日出席の皆様へ



Facebook



「全国認知症地域支援推進員連絡会—すいしんネット—」検索



全国の推進員で交流しましょう！

ご質問等ございましたら

〒470-0295

愛知県みよし市三好町小坂50番地

みよし市役所 福祉部 長寿介護課

認知症地域支援推進員・保健師

主任 近藤 隆彦

電話 0561-32-8009

ファクシミリ 0561-34-3388

choju@city.aichi-miyoshi.lg.jp

ご清聴

あ

い

が

と

う



還暦



緑寿



古希



傘寿



白寿



百寿

ございました。